

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

株式会社日立製作所（証券コード:6501）

【据置】

長期発行体格付 A A p
格付の見通し 安定的

■格付事由

- (1) 総合電機メーカーの最大手。IT（情報技術）で高度化された社会インフラを顧客に提供する社会イノベーション事業をグローバルに展開している。同事業を軸に事業ポートフォリオの継続的な見直しを進めており、17/3 期に日立物流、日立キャピタル、日立工機、19/3 期に日立国際電気が連結子会社から外れた。一方、18 年 12 月には ABB のパワーグリッド事業買収を発表している。これは当社にとって過去最大規模の M&A であり、20 年前半のクロージングが予定されている。
- (2) 事業ポートフォリオの継続的な見直しやコスト構造改革の取り組みなどを背景に業績は堅調である。社会イノベーション事業の中核を担う IT セクターなどが業績をけん引するようになっている。また、キャッシュ創出力の強化と自己資本の拡充で財務構成の改善も進んだ。21/3 期に大型買収が予定されているものの、投資余力や財務耐久力が高まっており、格付に与える影響は限定的である。以上を勘案し、格付を据え置き、見通しは安定的とした。JCR は、三菱重工業が当社に対して申し立てた南アフリカ火力プロジェクトに係る仲裁の行方を引き続きフォローしていく。
- (3) 19/3 期の調整後営業利益は 7,549 億円（前期比 5.6%増）と 2 期連続で過去最高を更新した。事業規模の拡大や原価低減が主要な増益要因である。同期の調整後営業利益率は 8.0%まで高まった。一方、英国原子力発電所建設プロジェクトの凍結に伴う費用として 2,946 億円をその他の費用に計上したが、最終利益は 2,225 億円と比較的高い水準を確保した。20/3 期の調整後営業利益は 7,650 億円と 3 期連続で過去最高を更新する計画である。原価低減や事業規模の拡大が引き続き主要な増益要因として見込まれている。ただ、足元では IT セクターなどが好調な一方、日立化成など上場子会社 4 社の業績が弱含んでいる。
- (4) 19/3 期の営業キャッシュフローは 6,100 億円、フリーキャッシュフローは 4,471 億円と高水準であり、同期末の親会社株主持分は 3 兆 2,626 億円と厚みがある。親会社株主持分比率は 33.9%（前期末 32.4%）、非支配持分を除いて算出した DER は 0.31 倍（同 0.32 倍）と各々改善した。21/3 期は大型買収に伴うキャッシュアウトと資産の増加が予定されているものの、財務構成への影響は抑制される見通しである。今後も積極的な M&A を志向しているが、一定の財務規律の下で実行されると JCR は想定している。

（担当）千種 裕之・関口 博昭

■格付対象

発行体：株式会社日立製作所

【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	AAp	安定的

格付提供方針に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2019年8月5日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：千種 裕之
主任格付アナリスト：千種 裕之
3. 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」(2014年1月6日)として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」(2014年11月7日)、「電機」(2011年7月13日)として掲載している。
5. 格付関係者：
(発行体・債務者等) 株式会社日立製作所
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. 非依頼格付について：
本件信用格付は格付関係者からの依頼に基づかない信用格付である。国に対する信用格付である場合を除き、依頼に基づく格付と区別するため格付記号の後に「p」を表示している。格付関係者からは、信用評価に重要な影響を及ぼす非公表情報を入手していない。
10. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果的正確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っており、JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO(Nationally Recognized Statistical Rating Organization)の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ(<https://www.jcr.co.jp/en/>)に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル